

2024年度 第2回研修会報告

日 時：2024年6月09日 木ノ本駅9：45 集合～同15：46 解散

場 所：長浜市余呉町 中河内・半明

参加者：小西、水田、高村*、明石*、長沢*、高橋(報告) *印は一般参加

第2回研修会の案内では、「日本海要素や北方要素の、主に冷温帯に生育する植物を観察」と紹介されていました。実際、半明の高時川周辺では数多くの植物が観察でき、植物好きには最高の現場ではないかと思われました。研修担当の小西さんが説明してくれた植物類は100種近くになったと思います。わたしの手帳のメモだけでも50種を超えていました。今回の報告では水辺を好む植物を中心にまとめていきます。

【半明】



半明の観察スタート地点。先ず目に付くのはウツギの花、いたるところに咲いていました。



ナルコユリ(キジカクシ科) コウモリカズラ(ツヅラフジ科) ナワシロイチゴ(バラ科木イチゴ属)



ママコノシリヌグイ(タデ科) 原野や水辺に生える。多くの下向きの棘により他の植物にまといつく。棘だらけのこの草で継子のお尻を拭いて傷だらけにさせるという残酷な話。花は5 mmほどで可憐。花期は5～10月とのことだが、研修では見つけれずネットから掲載。



ミツバウツギ(ミツバウツギ科) 落葉低木 低山帯の川の縁、林床の木陰を好む。軍配のような実の形。葉は3出複葉、白い花がウツギに似ているところから名付けられている。花期は初夏、写真はネットから掲載。



クマイチゴ(バラ科キイチゴ属)

ボタンヅル(キンポウゲ科) 葉 と 綿毛の種

今回の研修地はクマイチゴだらけでした。他の木イチゴ類に比べると葉が非常に大きく、背も高くイチゴの仲間じゃないと勘違いしそうです。ボタンヅルは葉だけしかなかったので、面白い種の画像をネットから掲載。



シャク(セリ科シャク属) 種 と 花

ヒトリシズカ(センリョウ科)

シャクはこの研修で知りました。同じセリ科のハナウドなどと同じような白い小さな花を傘状に多数付ける。山地の谷間や林内の湿った場所に群生するそうです。



ヤマトアオダモ(モクセイ科トネリコ属)

ミヤマイボタ(モクセイ科イボタノキ属)

ヤマトアオダモは山地の溪流沿いに生える落葉高木。奇数羽状複葉、小葉に柄があり葉軸の付け根が膨らむ。

ミヤマイボタはネズミモチと同じイボタ属の落葉低木。落葉広葉樹林内や林縁に生育する。



ミヤマハハソ(アワブキ科) 実

葉ーコナラ(ハハソ)に似た葉ー

落葉低木、樹高 2~3m。丘陵帯から山地帯の湿った落葉樹林内に生える。

この木も初めて知りました。「ハハソ」は万葉集にも出てくるコナラの古名とのこと。



ハンショウズル(キンポウゲ科) 実 熟した果実 花と3出複葉
ボタンズルと同じキンポウゲ科センニンソウ属。熟した果実がよく似ている。右の2つはネットから掲載。



ウリノキ(ミズキ科) 蕾 と 花

ミスミソウ(キンポウゲ科)



コクサギ(ミカン科) 高時川沿いに群生している。 花期は4~5月
湿った林内や沢沿いに群生。ミカン科特有の匂い。「コクサギ型葉序」で知られている。



モリアオガエルの卵塊



モリアオガエルの雌



アカハライモリ

研修会の高時川沿いに通る道は、山側からしみ出す水が流れ落ち浅い水たまりがそこかしこにできていました。その水たまりを目指して、モリアオガエルが道に張り出す木の枝に卵塊を作っていました。水たまりにはオタマジャクシが泳いでおり、それを餌にするアカハライモリもありました。そして、驚いたことにモリアオガエルの雌を発見し捕まえました。足には大きな吸盤が付いていて握った手を吸盤でしがみつきます。高い木の枝に登るのにこの吸盤が役に立つのでしょう。

谷側には杉の林があり、枯れた杉にはキツツキが穿った穴が開いていました。湖北地域の冷温帯樹林の風景を味わえる研修コースでした。

キツツキの穴==>



半明地区で観察したが今回の報告に選ばなかった植物類がたくさんあります。それを下にあげます。

アキカラマツ(キンポウゲ科)
ヤマグワ(クワ科)
ケンボナシ(クロウメモドキ科)
ナガバモミジイチゴ(バラ科)
カラスザンショ(ミカン科)
コバノコマユミ(ニシキギ科)
サンカクヅル(ブドウ科)
オオタチツボスミレ(スミレ科)
オオモミジ(ムクロジ科)
タニウツギ(スイカズラ科)
ハイイヌガヤ(イヌガヤ科)

ニワトコ(ガマズミ科)
ヒメコウゾ(クワ科)
ヒナウチワカエデ(ムクロジ科)
ハイタムラソウ(シソ科)
イヌザンショ(ミカン科)
ツルニンジン(キキョウ科)
ウマノミツバ(セリ科)
ヤマボウシ(ミズキ科)
ワサビ(アブラナ科)
ダンコウバイ(クスノキ科)
クサボタン(キンポウゲ科)

オニグルミ(クルミ科)
オオヨモギ(キク科)
タラノキ(ウコギ科)
クサギ(シソ科)
シナノキ(アオイ科)
ヒメドコロ(ヤマイモ科)
ミヤコイバラ(バラ科)
ハグロソウ(キツネノマゴ科)
バイカウツギ(アジサイ科)
カスミザクラ(バラ科)
ニガキ(ニガキ科)

など... (高橋の研修メモから)

【広峯神社】

研修会の最後は、余呉町中河内の広峯神社の樹林の観察でした。県神社庁によると、広峯神社は安土桃山時代から続いており、雪深い湖北の山村の人々の信仰を集めています。

境内にはケヤキ、トチノキ、スギの巨木がそびえ、また本殿裏の湿地周辺には、ザゼンソウ、テツカエデなどが見られます。いずれも水辺や湿地を好む植物で乾いた峯ではなく湿った谷に相応しい。廣谷神社とした方が良いのではと思っています。



トチノキ大木



スギの大木



テツカエデ



巨木に着くツタウルシ
と ツルアジサイ



ザゼンソウ(サトイモ科)



カメラマンを代えてもう一枚